



書 評

いますぐ知りたい小児の気道・呼吸管理

橘 一也・編

◆「あの時に知っておけばよかった」小児の
気道・呼吸管理◆

小児，気道，呼吸管理とくれば，興味をそそられる。しかし，普通では面白くない，少し意地悪な読み方をしてみようと思い立った。

まずは目次をチェック。第4章，“酸素療法”と“HFNC”の間に“人工呼吸中の加温加湿”をはさんでいる。酸素療法での加湿不足に目配りしている。“手術室での抜管”“ICU 患児の抜管”の次に“気道浮腫対策”と続くのも現場の苦勞を知り尽くしているからであろう。

目次は問題ない，索引も手を抜いていない，なかなかやるな。

ならばと，作戦変更。最後の方で少し雑になる書籍をときに見かけるので，後ろから順番に読んでいった。いくつか気づいた点を紹介する。

“呼吸循環相互作用”“呼吸と肺血管抵抗”は，むかし小児心臓外科術後ICUに勤務していた私には刺さる内容だ。

“横隔神経麻痺”では知らなかった情報がいっぱい。新生児・乳児では片側麻痺であっても人工呼吸器からの離脱が難しいことは経験していたが，PEEP オン・オフへの反応が診断に役立つ，治療には数カ月から数年かかるので早期の横隔膜縫縮術が推奨される，Fontan 循環では横隔神経麻痺の影響が大きくなるとは知らなかった。

“クループ症候群”執筆者は手練れの使い手，文章も魅力的なおモロイ人だ。“急性喉頭蓋炎という診断が難しい，…死亡リスクが高いので出会いたくない（訴訟に巻き込まれたくない）…”“急性喉頭蓋炎は‘絶滅危惧種’…”と軽妙。内容も素晴らしい。症状の特徴，症状が出現する原理，気道確保の心得など，できる臨床家の金言が満載

である。

“気道異物”では“異物操作中に，いかに気道をコントロールし，酸素化・換気を維持するか，が麻酔科医の腕の見せ所である”の一文にしばれた。麻酔科医としての気概に感動。

“喉頭軟化症の分離”の図を見た際，恥ずかしいが凍ってしまった。喉頭蓋が声門に倒れこんで気道閉塞する Type 3，“あの時”見た場面を思い出した。緊急再挿管が必要なのに，気管孔が同定できず混乱し心肺停止に至った症例を思い出した。喉頭軟化症の予兆，緊急対応の手順をしっかりと把握していなかった。あのときにこの本，この知識があれば，もっとまashedことができたのに…と遠い目になってしまった。

気を取り直して再び第4章“管理”から読んでいった。“人工呼吸中の鎮痛・鎮静”，筋弛緩薬について，当然ながらしっかり書かれている。小児でのプロポフォール使用についても慎重であるが，ちゃんと触れているのは誠実だ。“HFNC”“NPPV”“HFOV”について，最新の情報，文献を紹介している。

編者が意図したとおり，知りたいとき，調べたいときにすぐ回答が得られるよう簡潔で，絵も見やすくデザインされている。小児麻酔・小児集中治療のバリバリ現役が結集してできた本である。

自信を持ってお勧めする。すべての小児“気道戦士”に読んでいただきたい。

（宝塚市立病院集中治療救急室 今中 秀光）

B5 判，248 頁
2023 年 7 月，定価 6,930 円
克誠堂出版

